



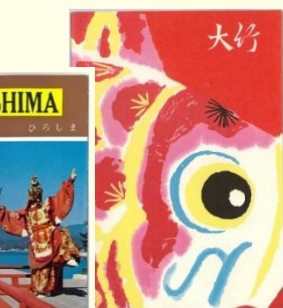
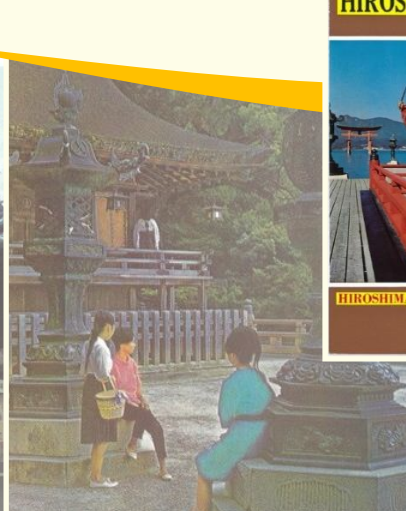
令和6年度第2回収蔵文書の紹介展

中国・四国地方の

観光資料

令和6年
10月8日(火)
▼
12月21日(土)

今回の展示では、当館の収蔵文書の中から、昭和20~50年代の観光に関する資料を紹介します。広島県の観光振興に係る行政文書や、個人が収集した県内観光地のパンフレットを中心に、普段紹介することが少ない中国・四国地方各県の観光資料も併せて展示します。



広島県立文書館

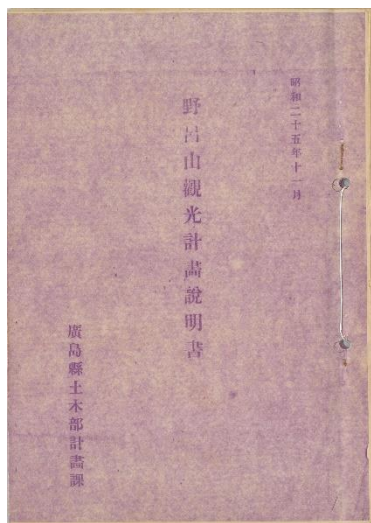
1 広島県の観光行政と観光資料

(1) 広島県の自然環境と瀬戸内海国立公園

広島県は、北部に原生林や峡谷美に恵まれた中国山地があり、中央部の緑豊かな高原・台地を経て、南部は多島美を誇る瀬戸内海に臨む。また、古い歴史を持つ多数の文化財や郷土芸能等があり、観光資源に恵まれている。中でも瀬戸内海は、昭和9年(1934)に全国最初の国立公園の一つに指定されたが、沿岸に軍の関係施設が多かったため、県内では備讃瀬戸(福山市・沼隈町)が指定を受けたのみであった。戦後は、昭和25年(1950)と31年(1956)に指定区域が拡大され、宮島・極楽寺山、野呂山・休山・倉橋島、芸予諸島などが追加指定された。

(2) 戦後の観光振興

戦後、広島県が観光振興の取組を始めたのは、昭和24年(1949)頃のことであった。この年には、野呂山、豊田郡御手洗町、三原市の観光資源調査や、観光パンフレットの作成、講演会を行うとともに、中国地方各県と連携して宮島で全国観光大会を開催した。翌25年(1950)には広島県観光連盟が発足し、県は広島県観光事業審議会を設置して、観光資源の開発や道路、施設の整備を進めることになった。昭和20年代後半には、戦時中に荒廃した自然公園や観光施設の復旧、湯来温泉などの温泉地の開発・整備等が行われた。



野呂山観光計画説明書(写) 計画課 昭和25年(1950)11月

[県行政文書 S01-95-241 所収]

昭和25年(1950)5月に野呂山が瀬戸内海国立公園に編入されたことを受け、同年11月に広島県が作成した観光開発の基本計画書。野呂山高原を農林地と観光地に区分し、土地利用計画の概要を記している。

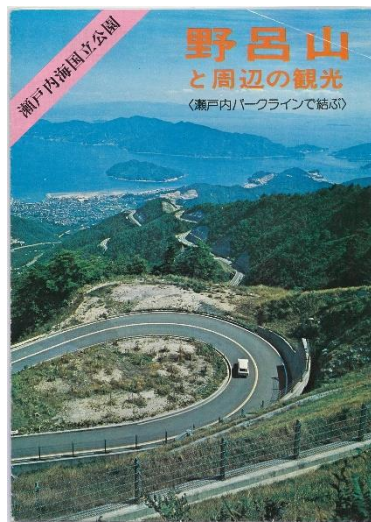
国立公園野呂・休山山系スカイライン開発期成同盟会関係書類 商工観光課 昭和39~40年(1964~65)

[県行政文書 S01-95-240、S01-94-343]

昭和38年(1963)10月、野呂山・休山山系の総合観光開発に必要な道路の開発及び付帯公共施設の整備、並びに観光開発企業の誘致等の実現を目的として、「国立公園野呂・休山山系スカイライン開発期成同盟会」が結成された。この会は、名誉会長を池田勇人首相、会長を永野巖雄広島県知事とし、呉市、川尻町、安浦町等の関係自治体が参加した。スカイラインは、川尻町から野呂山、灰が峰、休山を経て、音戸瀬戸にいたる陸地部を第一期、音戸大橋から倉橋町の鹿老渡に至るまでの島嶼部を第二期として開発計画が策定され、昭和43年(1968)7月に川尻町から野呂山山頂に至る有料道路(さざなみスカイライン)が開通した。

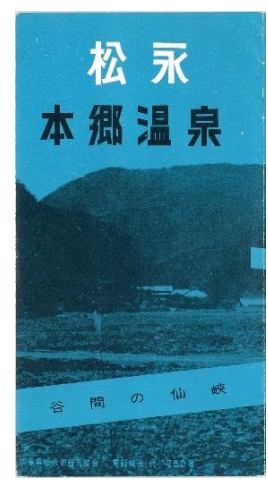
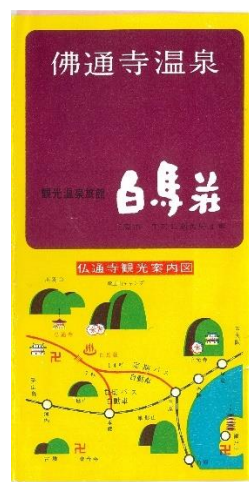
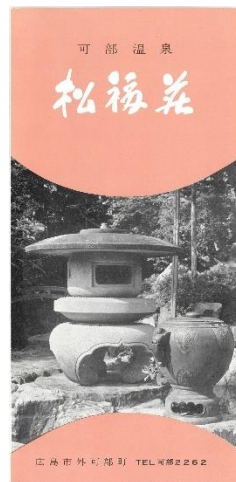
「瀬戸内海国立公園 野呂山と周辺の観光〈瀬戸内パークラインで結ぶ〉」 広島県野呂・休山・火山山系ライン開発期成同盟会 昭和50年代

[県行政資料 W-28407]



温泉のパムフレット 昭和 20~50 年代 ^{みちたか} [山田迪孝文書 200013、行政資料(市町村)]

湯来温泉は、古来湯治場として親しまれてきたが、昭和 24 年(1949)に科学的方法による泉源開発が行われ、翌 25 年(1950)に県内最初の温泉地として整備された。昭和 20~30 年代にかけては、湯之山温泉、羅漢温泉、可部温泉、仏通寺温泉、養老温泉、本郷温泉、矢野温泉など、県内各地で温泉の開発・整備が行われた。



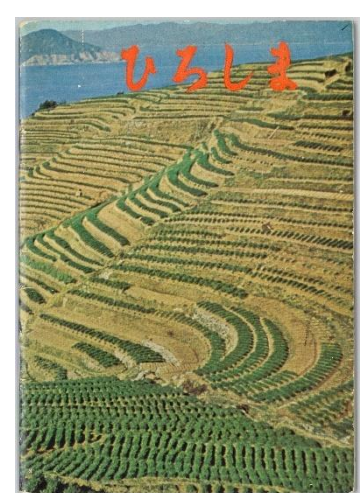
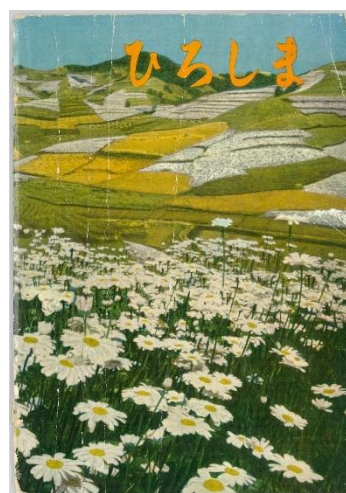
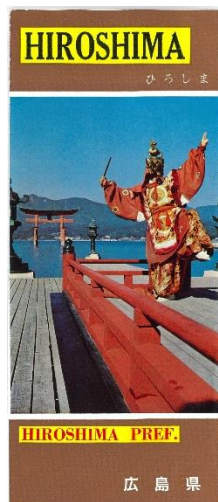
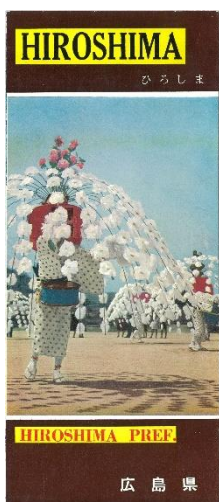
(3) 高度経済成長期の観光 ①

昭和 30~40 年代には、高度経済成長による生活水準の向上と余暇時間の増大によって国内観光客が飛躍的に増加するとともに、広島市を中心に国際観光客も増加した。

昭和 32 年(1957)、県は商工部に商工観光課を設置し、観光パンフレットや観光映画の作成、全国主要都市への観光宣伝隊の派遣、近県との共同宣伝や物産展の開催等、積極的な観光客誘致に努めた。また、過疎化の進行によって地域振興が重要な課題となり、各地域の観光資源を結ぶ広域観光ルートの確立や、農業・漁業などの産業と結びついた観光開発を進めることにした。

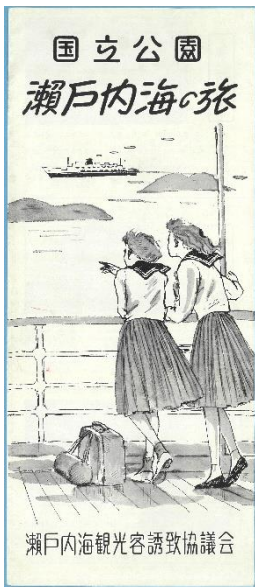
広島県が作成した観光資料 昭和 30~40 年代 [山田迪孝文書 200013、県行政資料]

広島県は、昭和 30~40 年代にかけてパンフレットや案内書など数多くの観光資料を発行し、積極的な宣伝活動を展開した。また、昭和 34(1959)年度に制作した観光映画「ひろしま」は、運輸大臣賞及び日本観光映画コンクールの優秀賞を獲得し、昭和 45・46(1970・71)年度にも観光映画「四季のひろしま」を制作している。観光映画のフィルムは、旅行業者、学校、各種団体などに貸し出され、県内観光地の宣伝紹介に大きな効果を上げた。



「HIROSHIMA ひろしま」昭和 35 年(1960)頃 [山田迪孝文書 200013-37・196]

「ひろしま」[左:昭和 30 年(1955)頃、右:昭和 35 年(1960)頃] [県行政資料 5040-2000-1127・1128]



「国立公園 瀬戸内海の旅」瀬戸内海観光客誘致協議会 昭和 35 年(1960)頃

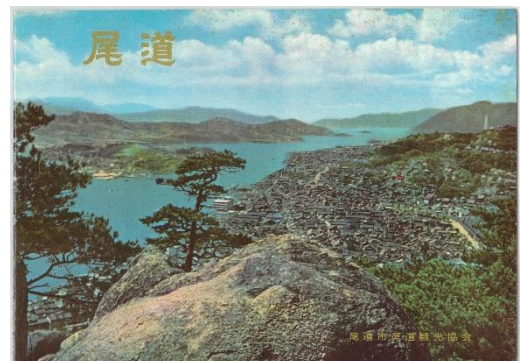
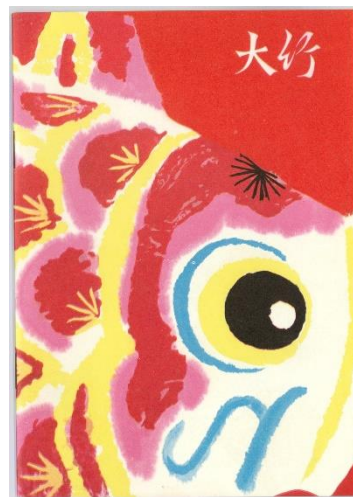
[山田迪孝文書 200013-107]

瀬戸内海観光客誘致協議会は、瀬戸内海国立公園に関係する各県が、観光客誘致事業を共同で実施することを目的として設置された。当初は広島・愛媛・香川の3県で発足し、その後岡山県が加わった。この協議会では、観光客の誘致宣伝、受入体制の整備、観光情報の交換、印刷物の刊行等の事業が行われた。この資料は、昭和 35 年(1960)頃に、修学旅行を誘致するために作成したパンフレットである。

広島県観光開発計画実施について 計画課 昭和 37 年(1962)

[県行政文書 S01-92-427]

昭和 37 年(1962)9月、広島県(土木建築部計画課)は、県内の主要観光地の開発・保護計画を作成するため、44 市町村に対して観光地の実態調査と開発計画書の作成を依頼し、これに対して 34 市町村から回答があった。各市町村からの回答文書には、観光パンフレットなどの観光資料が添付されている。



「広島県観光事業促進基本計画(案)」広島県 昭和 38 年(1963)2月 [県行政文書 S01-95-242 所収]

この基本計画(案)は、観光往来の飛躍的増加に対処し、観光地とその周辺地域の経済の発展、文化の向上に資するために策定されたものである。基準年次を昭和 36 年(1961)、目標年次を同 45 年(1970)として、観光客誘致を促進するための観光コースの設定、観光施設の整備、資源開発調査、誘致宣伝の強化などを重点的・効果的に進めることとし、広島湾、芸北、備南、備北の各観光地域について、事業計画と資金対策を示している。

「過疎地域振興方針(案)」昭和 45 年(1970)7月 [県行政文書 S01-2001-938 所収]

昭和 35 年(1960)から 40 年(1965)にかけて、広島県全体の人口は 4.4%増加したが、県内 107 市町村のうち 47 市町村を数える過疎地域では 15.8%も減少し、^{きょかりそん} 挙家離村などの深刻な問題が生じていた。過疎問題に対処するため、広島県は昭和 45 年(1970)7月に「過疎地域振興方針(案)」を策定し、交通通信体系や教育文化施設の整備、厚生施設の整備と医療の確保、産業の振興、集落の整備を推進することにした。観光については、観光資源の保全に留意しつつ、「点から線へ」の広域観光ルートの確立を基調として観光開発を進め、農業(観光農園)・漁業(観光漁業)等の産業と結びついたレジャー対象の開発を図ることを提言している。

(4) 高度経済成長期の観光 ②

昭和 30～40 年代には、自然公園等の観光資源の保全や、観光施設、道路の開発・整備が推進された。自然公園については、昭和 38 年(1963)に比婆道後帝釈^{ひばどうごたいしゃく}、昭和 44 年(1969)に西中国山地^{にしちゅうごくしやんち}が国定公園に指定され、南原峡^{なばらきやう}や山野峡^{やまのやま}などが県立自然公園に指定された。また、昭和 38 年(1963)に大久野島^{おおくのしま}国民休暇村、昭和 46 年(1971)には県民の森が整備され、野呂山^{のろやま}有料道路や後山^{あごやま}有料道路(福山市^{ふくやま}鞆町^{とも}～水呑町^{みのみ})が建設された。

順調な伸びを続けた国内観光客数は、昭和 48 年(1973)のオイルショックで一時的に停滞したが、昭和 50 年(1975)3月には山陽新幹線の岡山-博多間が開通し、広島県の観光は新たな時代を迎えることになった。

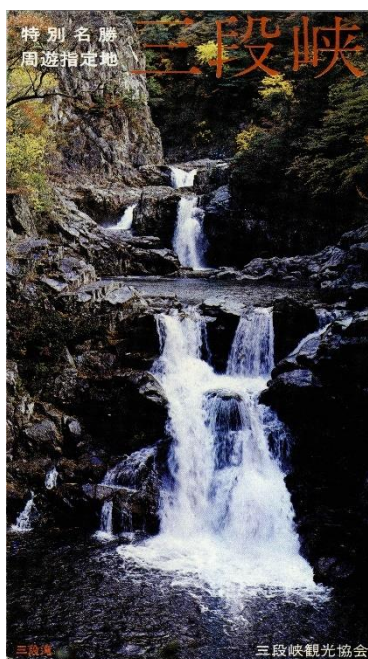
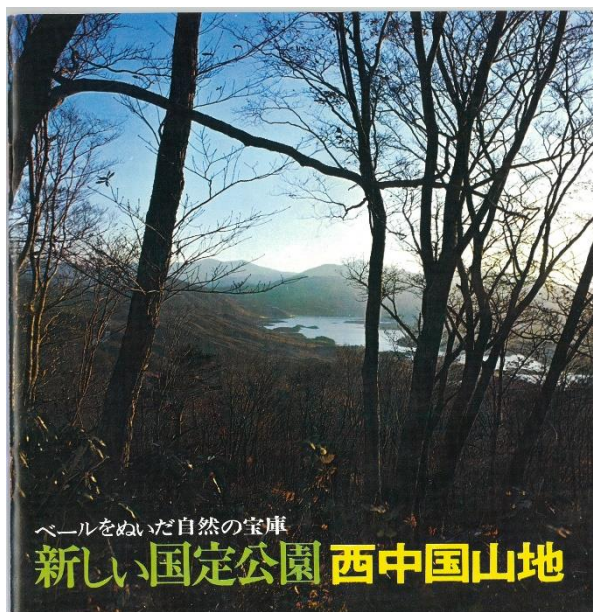
「比婆道後帝釈^{ひばどうごたいしゃく}地域観光開発調査報告書」 広島県 昭和 43 年(1968)3月

[県行政文書 S01-98-526 所収]

比婆道後帝釈国定公園は、広島・島根・鳥取3県の県境周辺に位置し、昭和 38 年(1963)7月 24 日に指定された。公園区域は、北は船通山^{せんつうざん}、東は道後山^{あづまやま}、西は吾妻山^{あづまやま}を連ねた山地と、その南にある帝釈峡の2つの地区に分かれている。本書は、広島県が財団法人国立公園協会に委託して行った比婆道後帝釈地域観光開発調査の報告書で、比婆山のブナの原始林や帝釈峡の溪谷等を特別保護地区とすることや、道後山と比婆山を結ぶ中国山地スカイラインの建設、国民宿舎やキャンプ場、スキー場などのレクリエーション施設の整備等を提言している。その後、昭和 46 年(1971)7月、広島県は明治百年事業の一環として、公園内に県民の森を整備した。

「西中国山地国定公園(指定記念式) 観光課 昭和 44 年(1969) [県行政文書 S01-2001-1017]

昭和 44 年(1969)1月 20 日、広島・島根・山口3県にまたがる冠山^{かんむりやま}山地を中心とする一帯が西中国山地国定公園に指定された。この簿冊は、同年6月8日に戸河内^{とごうち}中学校体育館で開催された指定記念式に関する文書の綴り^{ひやまとせりう}で、式次第や齋藤昇^{ひやまとせりう}厚生大臣の祝辞、檜山袖四郎^{ひやまとせりう}広島県議会議長の挨拶文、足立正自然公園審議会会長等からの祝電のほか、当日の配布資料が添付されている。配布資料の中には、指定記念タバコや公園内の観光案内書・リーフレット等が含まれている。



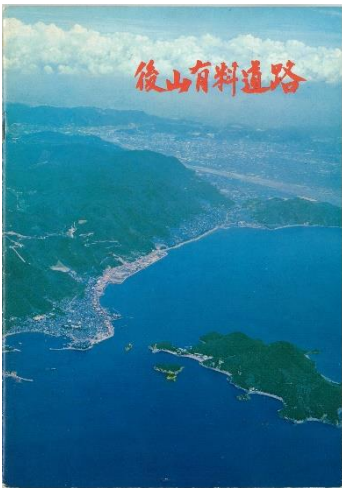
県立自然公園の選定について答申 昭和42年(1967)3月 [県行政文書 S01-98-521 所収]

昭和42年(1967)3月6日、広島県観光事業審議会長が県知事に対して、南原峡なばらきょうと山野峡の県立自然公園選定を答申した文書。この答申を受け、南原峡は同年9月、山野峡は11月に県内初の県立自然公園に指定された。県立自然公園とは、県が条例によって特に優れた自然景観をもつ区域を定めて指定するもので、その後昭和46年(1971)11月には、三倉岳みくらだけ、ちくりんじょうくらはやま、ぶつうじ、みつぎはちまんぐう、仏通寺御調八幡宮が指定を受けた。

昭和37年度瀬戸内海国立公園大久野島園地工事設計書 商工観光課 昭和37(1962)年度

[県行政文書 S01-92-224]

戦前・戦時中に陸軍の毒ガス製造施設があった竹原市の大久野島は、昭和35年(1960)に瀬戸内海国立公園の集団施設地区に指定され、国民休暇村として整備されることになり、昭和38年(1963)にオープンした。この資料は、昭和37(1962)年度の園地工事の設計書で、旧陸軍の不要施設撤去に係る毒ガス「みどり一号製造室ノ図」、「みどり筒製造室ノ図」や、「防空壕配置図」などの図面が含まれている。



「後山有料道路」広島県福山土木建築事務所 昭和45年(1970)

[県行政資料 7010-2010-407]

後山有料道路(福山グリーンライン)は、鞆の浦ともうらを眼下に見下ろし、遠く芸予、備讃の瀬戸内海の風景が眺望できる観光道路として建設され、昭和49年(1974)4月1日に開通した。

鉄道整備促進(山陽新幹線関連観光対策連絡協議会) 交通対策課

昭和48~49年(1973~74) [県行政文書 S01-2004-264]

昭和47年(1972)11月、山陽新幹線開通後の観光客受入対策を検討するために、山陽新幹線関連観光対策連絡協議会が設置された。この協議会には、国、広島県、広島市の観光・交通担当部局や、国鉄、バス会社、海運会社などが参加し、宣伝隊の派遣、観光展の実施、観光ルートの設定等の観光客の誘致促進策や、案内・誘導體制、交通体制、宿泊施設の整備等の観光客受入対策が検討された。

「広島県観光便覧(昭和41年)」 観光課 昭和41年(1966) [山田迪孝文書 200013-1993]

広島県の観光行政担当課が毎年刊行する観光便覧で、県内の主要な観光地や観光資源、宿泊施設や交通機関、観光土産品などの情報が掲載されており、当該年度の観光の状況をうかがうことができる。

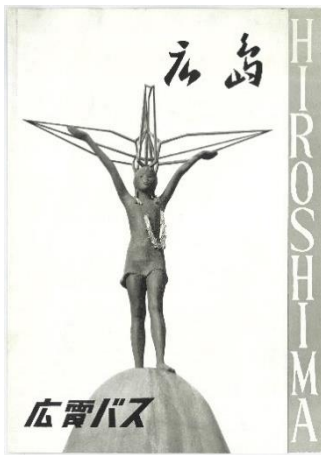
◆ 個人が収集した観光パンフレット

観光パンフレットは、一時的な使用を目的とするため、体系的に収集・保存されることが少ない。しかし、当館蔵の山田迪孝文書みちたか(文書群番号 200013)や村上式資料はじめ(同 200011)には、数多くの観光パンフレットが含まれており、当時の観光の状況をうかがうことができる。

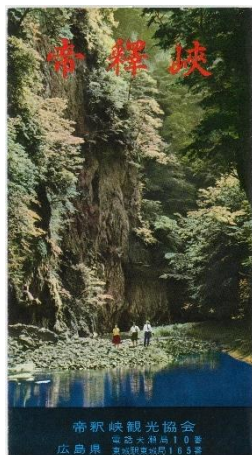
山田迪孝(1920~1998)は、元広島県職員で、日本現代詩人会の会員でもあった。「自県主義」と称して県内をくまなく歩き、数多くの観光パンフレットを収集・保存した。

村上式(1908~2000)は、元広島県立高等学校教諭で、広島県部落対策協議会委員などを務め、同和教育に深く関与した。県内外への出張や私的な旅行の際に、多くの観光パンフレットを収集・保存している。

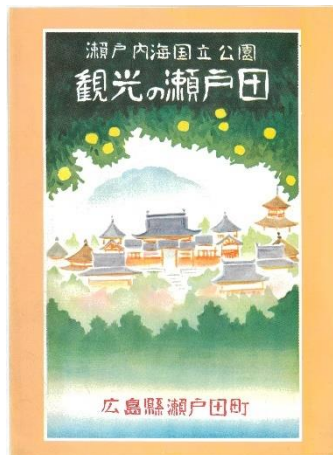
昭和 20~30 年代の観光とレジャー [山田迪孝文書 200013]



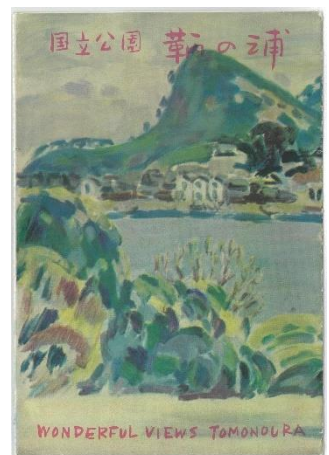
「広島 HIROSHIMA」
広島電鉄(株)



「帝釈峡」
帝釈峡観光協会



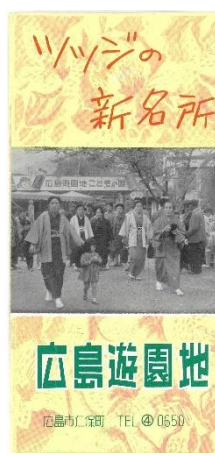
「瀬戸内海国立公園 観光の瀬戸田」
広島県瀬戸田町



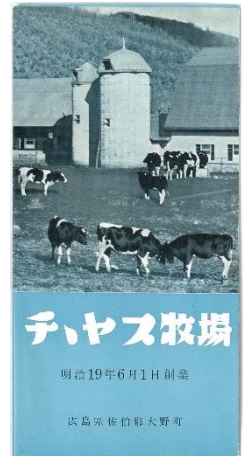
「国立公園 鞆の浦」
鞆鉄道(株)



「娯楽のセンター 楽々園スパ」 楽々園遊園地

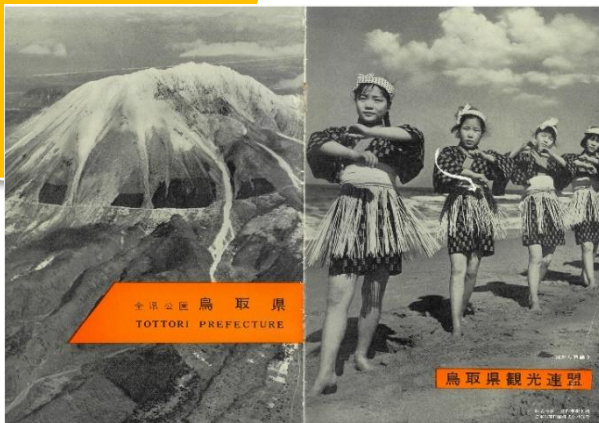


「ツツジの新名所」
広島遊園地

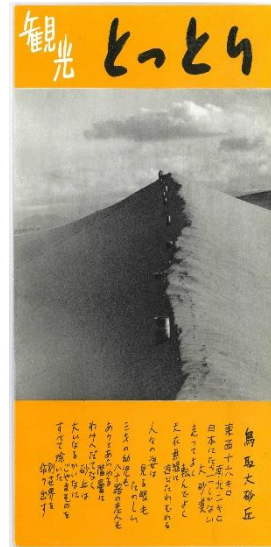


「チヤス牧場」
(株)チヤス

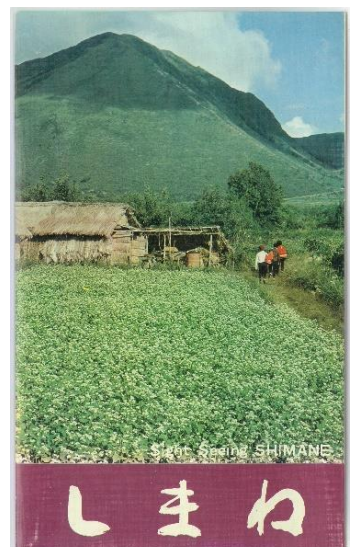
2 中国・四国地方の観光資料



「全県公園 鳥取県 TOTTORI PREFECTURE」鳥取県
観光連盟 昭和30年代頃 [山田迪孝文書 200013-713]



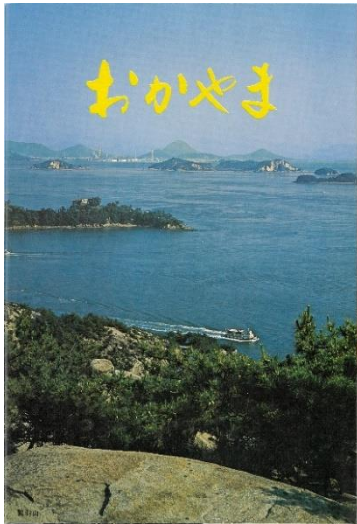
「観光 とっとり」鳥取市
観光協会 昭和30年代頃
[山田迪孝文書 200013-703]



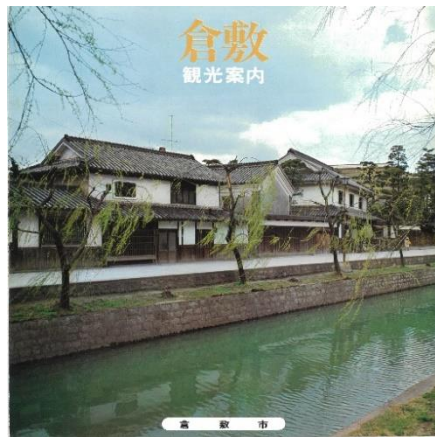
「しまね Sight Seeing SHIMANE」島根県
昭和40年代[村上式資料
200011-2665-97]



「山陰の水都 松江」松江市文化観光課 [山田迪孝文書
200013-785]



「おかやま」岡山県観光連盟
昭和50年(1975)頃 [県行政
文書 S01-2007-664 所収]



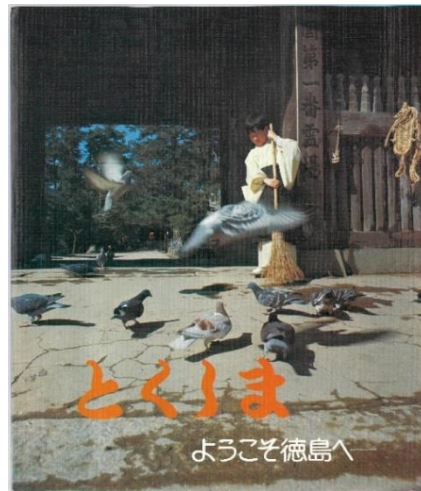
「倉敷 観光案内」倉敷市 昭和49年
(1974) [村上式資料 200011-1452
-17]



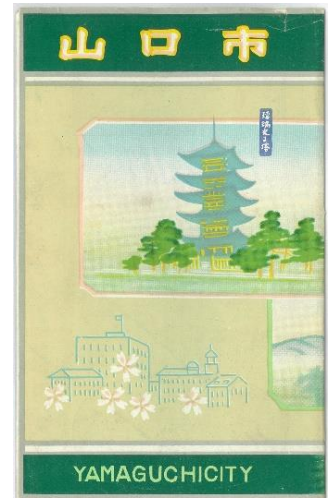
「国定公園 観光の秋芳 周遊指定地」
秋芳町観光課 昭和40年代前半
[村上式資料 200011-2665-216]



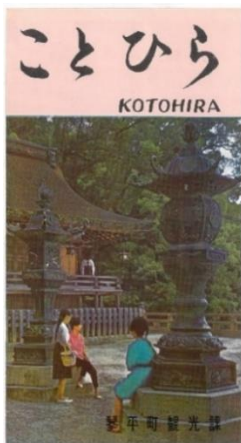
「讃岐路・小豆島へ」関西汽船
昭和27年(1952)11月
[村上式資料 200011-2664-8]



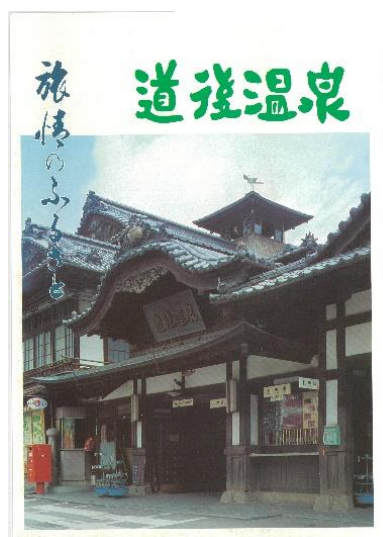
「とくしま ようこそ徳島へ」徳島県
昭和50年(1975)頃 [県行政文書
S01-2007-664 所収]



「山口市 YAMAGUCHICITY」
山口市役所・山口市観光事務所
昭和27年(1952)7月15日
[山田迪孝文書 200013-927]

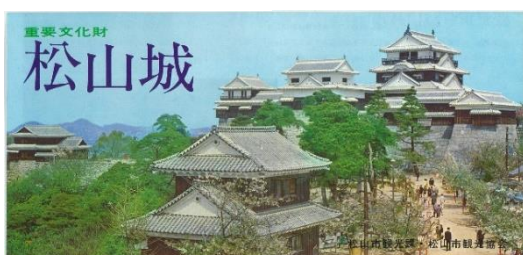
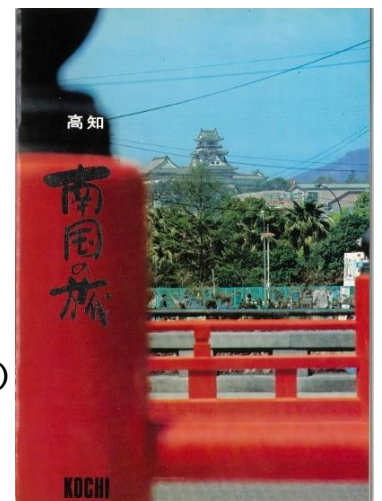


「ことひら KOTOHIRA」
琴平町観光課 [山田迪孝
文書 200013-3003]



◀「旅情のふるさと
道後温泉」松山市
産業部 昭和50年代
前半頃 [村上式資料
200011-2674-5]

▶「高知 南国の旅」
高知市観光課
昭和47年(1972)
5月 [村上式資料
200011-2674
-7]



「重要文化財 松山城」松山市観光課・松山市
観光協会 [村上式資料 200011-2674-25]

《令和6年度 第2回収蔵文書の紹介展》

中国・四国地方の観光資料

発行日 令和6年(2024)10月8日

編集・発行 広島県立文書館(担当 荒木 清二)

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目7-47

TEL: 082-245-8444 FAX: 082-245-4541

E-mail: monjokan@pref.hiroshima.lg.jp